

令和4年度 基本施策評価シート

作成日 令和4年6月30日

基本施策	D5 環境行動を実践します		
施策の目的 (対象と意図)	対象	意 象 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	自ら環境について学び、あらゆる場所で環境行動を実践している。	
長崎市第四次総合計画[後期基本計画] 基本施策掲載ページ		113ページ	
基本施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅
関係課名	廃棄物対策課、ゼロカーボンシティ推進室、学校教育課		

基本施策の振返り

後期基本計画策定時の課題		後期基本計画期間の取組み(H28～R3年度)	
個別施策	D5-1	環境教育・学習を推進します	
ア 幅広い年齢層に応じた環境活動の実施、幼少期における体験型環境学習の重要性		⇒	(ア)小中学校の実情に応じた環境活動の実施。 (イ)小中学生とその保護者を対象とした、親子環境教室や親子で省エネ実験・施設見学会など各種講座の実施。 (ウ)小中学校を対象としたサステナスクールや環境団体との連携によるESD講座の実施。 (エ)小学生を対象とした環境副読本の作成、配布。 (オ)ごみ出しマナーについて、新大学生や留学生に対する啓発ブースの設置や説明会を開催。 (カ)「サステナプラザながさき」を中心として、多様な世代が学べる場の拡大に向け、より幅広い世代に向けた環境講座や教室等を実施。
個別施策	D5-2	環境行動を促します	
ア すべての主体が共同の輪を広げ、関心を行動につなげるための取組みの必要		⇒	(ア)「ながさきエコライフ・フェスタ」及び「ながさきエコライフ・ウィーク」の実施(令和2年度からは新しい生活様式に対応した実施体制で実施)。 (イ)市民主体の環境活動拠点である「サステナプラザながさき(長崎市地球温暖化防止活動推進センター)」の開設及び運営。 (ウ)「サステナプラザながさき」を中心に、中学、高校、大学生からなる次世代ステークホルダーの主体的な意見を集約し、意見交換する機会「市民連携フォーラム」を実施。 (エ)中小企業向け「エコアクション21」説明会や「環境セミナー」の実施。 (オ)長崎市版「COOL CHOICE運動」の普及啓発と併せた「ながさきエコライフ」の取組みの浸透と拡大。 (カ)市民大清掃の実施やボランティア清掃団体への支援。

成果及び効果(H28～R3年度)

個別施策	D5-1	環境教育・学習を推進します
①環境を学ぶ仕組みの整備		
<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、各教科・領域において教育課程に沿った指導が行われるとともに、ペットボトルキャップ回収などの校内の環境活動では、学校の実情に併せて積極的に実施された。 ・小中学生とその保護者を対象とした「親子環境教室」や九州電力株式会社長崎営業所との協働による「親子で省エネ実験・施設見学会」など各種講座の実施により、環境に対する市民の意識の向上が図られた。 ・サステナスクールの認定や、環境団体との連携によるESD講座の実施により、環境問題に対して子どもたちが自ら課題を見つけ、対策を調べ解決していく能力を身に着ける機会を提供できた。 		
②環境を育む人づくり		
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした環境副読本を作成し配付することにより子どもたちにとって環境がより身近な問題として感じられ、身近なことから環境問題解決や改善に向けて取り組む意識の向上と環境学習のサポートにつながった。 ・新大学生や留学生に対する説明会を開催し、ごみ出しマナーに対する周知を行い、ゴミの減量や分別に対する意識の向上が図られた。 		

個別施策	D5-2	環境行動を促します
①環境行動の自主的な取り組み		
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度までは「ながさきエコライフ・フェスタ」を水辺の森公園で開催し、令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、新しい生活様式に対応したイベントを実施し、コロナ禍においても実践行動へ取り組みを始める市民及び事業者が増えた。 ・「ながさきエコライフ・ウィーク」を実施し、令和3年度には約4万人がチェックシートを提出したことで、実践行動へ取り組みを始める市民及び事業者が増えた。 		
②協働による環境行動の拡大		
<ul style="list-style-type: none"> ・「エコアクション21」説明会や「環境セミナー」を開催、事業者及び個人が参加したことで、事業者へ環境に配慮した事業活動を促すことができた。 ・「サステナプラザながさき」を中心とし、長崎市版「COOL CHOICE運動」の普及啓発を市民、様々な団体と連携して実施し、延べ約23,000人の賛同を得ることができ、長崎市版「COOL CHOICE運動」と併せ、「ながさきエコライフ」の取り組みの浸透と拡大を図ることができた。 ・市民大清掃等のイベント、ボランティア清掃団体への支援を行い、6年間で延べ約2,700団体、延べ約68万人のボランティア清掃への参加があり、地域、職域、様々な単位・団体における自発的な活動が定期的になされており、環境行動に対する意識の醸成が図られた。 ・アダプトプログラムの里親数はホームページ等での周知活動により認知が進み、環境美化に対する実践活動が広がっており、地域の環境美化に対する市民の意識高揚が図られた。 		

問題点とその要因(H28～R3年度)

個別施策	D5-1	環境教育・学習を推進します
①環境を学ぶ仕組みの整備、②環境を育む人づくり		
<ul style="list-style-type: none"> ・多様なニーズに対応するための人材育成の取り組みが足りていなかったため、多様な世代へのアプローチが弱く、世代を超えた地域の環境教育、学習のリーダーとなる人材の養成、各地域での拡がり不十分である。 		
個別施策	D5-2	環境行動を促します
①環境行動の自主的な取り組み、②協働による環境行動の拡大		
<ul style="list-style-type: none"> ・市政モニターアンケートによると、開設当初の平成28年から徐々に認知度があがっているものの、「サステナプラザながさき」の場所が分かりにくいものとなっており、実施しているイベントや、施設で学習できる内容が市民が興味を持つものとなっていないため、「サステナプラザながさき」の認知がまだ不十分である。 ・環境行動への参加を促すための情報提供やアドバイス等が市民まで行き届いていないため、環境行動に新たに参加する方の掘り起こしが十分でない。 		

今後の取組方針

※【】内は五次総合計画における個別施策

D5-1 → 【D4-1 環境に対する当事者意識の醸成を図ります】

①環境を学ぶ仕組みの整備

・小中学校においては、環境団体や教育委員会と連携して「ゼロカーボンシティ長崎」の推進を含めた環境教育の充実を図る。

②環境を育む人づくり

・多様な世代へのアプローチを行い、幅広い世代において環境意識の醸成を図る。

・様々な主体において環境学習のリーダーとなる人材の育成を図る。

・リーダーとなる人材の育成や新たな層の掘り起こしにつながる取組みを行うことで、幅広い市民による環境行動につなげる。

D5-2 → 【D4-2 環境行動を促し、生活様式として定着させます】

①環境行動の自主的な取り組み

・「サステナプラザながさき」を中心として、多様な主体が、様々な分野で環境行動を実践できるよう、「ながさきエコライフ」の取り組みの浸透と拡大を図る。

②協働による環境行動の拡大

・環境活動について、若い世代を含め幅広い世代を対象とし、積極的にSNS等を活用することで、さらなる周知に努める。

・リーフレットの配布や、広報ながさきおよび市HPを積極的に活用し、企業・団体等へアプローチを行う。

・生活スタイル、季節感・活動場所、時間、ターゲットに合わせた講座メニューやキーワードを設定して効果的に実施する等、環境活動に関係する場の増設を行う。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3	
環境保全活動団体メンバー数※1	27,275人 (26年度)	↑	目標値	42,000	44,000	46,000	48,000	50,000	52,000
		実績値	45,310	53,513	57,323	58,770	59,283	58,669	
		達成率	107.9%	121.6%	124.6%	122.4%	118.6%	112.8%	

※1市民ネットワーク「ながさきエコネット」登録メンバー数及びアダプトプログラム参加者数を合算して計上

基本施策の評価

Ad 目標を達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などが遅れている

判断理由

- ・基本施策の成果指標が100%以上の目標達成率となったことから「A」とする。
- ・個別施策の成果指標3つすべてにおいて、コロナ禍における影響が大きく、100%未満の目標達成率で、目標達成率が95%未満の低いものであるため「d」とする。

二次評価(施策評価会議による評価)

- 基本施策の評価「Ad」については所管評価のとおり。

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	D5-1	環境教育・学習を推進します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象	意 図		
	市民・事業者・行政等、すべての主体が	世代を超えて環境学習へ参加している。		
個別施策主管課名	環境政策課	所属長名	執行 毅	

令和3年度の取組概要

①環境を学ぶ仕組みの整備

- ・生活科、理科、社会科、総合的な学習の時間における環境学習に加え、道徳科や特別活動等においても環境問題等に関する学習を実施した。【G1-1から再掲】
- ・小・中学校内における環境行動の取組みとして、節電・節水、コピー用紙の再利用、各種リサイクル、プルタブやふたの回収、緑のカーテン、落ち葉や給食残滓を利用した堆肥づくりなどを各学校の実情に応じて実施した。
- ・小中学生に対する環境教育を推進するため、給食用牛乳パックや、家庭から排出されるペットボトル等の樹脂製のふた、金属製のふたを回収を行い、児童・生徒及び保護者のごみ分別・リサイクル意識の醸成を図った。【D2-1から再掲】
- ・「親子環境教室」については、小中学生とその保護者を対象に計3回開催した。【D4-1から再掲】
- ・率先して環境行動を実践する人づくりの一環として、九州電力株式会社長崎営業所と協働し、「親子で省エネ実験・施設見学会」を開催した。
- ・地球温暖化防止活動推進員や県の環境アドバイザー制度の活用を行い学校、公民館等に講師を派遣し、「環境出前講座」を開催した。
- ・環境団体との連携により小学校2校、中学校1校、計3校においてESD(持続可能な開発のための教育)講座を実施した。

②環境を育む人づくり

- ・小学生を対象とした環境副読本(3・4年生対象「くらしとリサイクル」、5・6年生対象「わたしたちのくらしと環境」)を配布した。5・6年生対象「わたしたちのくらしと環境」の中で、「ゼロカーボンシティ長崎」についても取り上げた。
- ・ごみ出しマナーについては、新大学生へ向け、啓発促進のためのブースを学内に設置し、ごみの減量と分別の徹底を呼び掛けた。

評価(成果)

①環境を学ぶ仕組みの整備

- ・学校では、自然環境や環境問題についての学習を進め、各学校の実情に合わせた様々な環境活動に取り組むことができた。
- ・「親子環境教室」や、「親子で省エネ実験・施設見学会」を開催し、「親子環境教室」に合計176人、「親子で省エネ実験・施設見学会」に51人が参加した。親子での自然環境、省エネ等の体験を通して、家庭においても、環境行動への意識を高めるきっかけづくりにつながった。
- ・環境団体との連携によるESD講座を小学校2校、中学校1校、計3校において実施したことにより、環境問題に対して子どもたちが自ら課題を見つけ、原因や対策を調べ解決していく能力を身に着ける機会を提供できた。

②環境を育む人づくり

- ・環境副読本の作成と配布を行ったことにより、子供たちにとって環境問題がより身近な問題として感じられ、身近なことから環境問題解決や改善に向けて取り組む意識の向上と環境学習のサポートにつながった。
- ・ごみ出しマナーについて、新大学生へ向け、啓発促進のためのブースを学内に設置し、ごみの減量と分別の徹底を周知することができ、ごみ出しのマナーやごみの減量、分別に対する意識の向上が図られた。

評価(問題点とその要因)

①環境を学ぶ仕組みの整備

- ・多世代を対象とした有効的メニューについて検討が不十分であったため、小学生を対象としたものが多く、多世代に向けた取組みが十分でない。

②環境を育む人づくり

- ・開催した講座、説明会の多くが、関心をもってもらうことを目的とした内容となっており、さらなるレベルアップやスキルアップを目指す方々への情報提供や意見交換などに繋がるような研修、講座が不足していたため、環境副読本の配布やごみの分別説明会の開催等、環境問題に対する市民の意識の向上に向けて取り組んでいるが、地域の環境教育・学習のリーダーとなる人材を育成する取組みが十分ではない。

今後の取組方針

①環境を学ぶ仕組みの整備

- ・「親子環境教室」を継続して実施し、自然環境に対する意識の高揚を図る。【D4-1から再掲】
- ・学校では、各学校の状況に対応した効果的な資料や教材の開発、身近な環境とのかかわりを活用した諸活動の充実等を行っていく。また、年度末に各小中学校に対しアンケートを行い、フィードバックを通して、環境問題についての啓発を行う。
- ・「サステナプラザながさき」を中心として、より幅広い世代に向けた環境講座や教室等を実施することで、学校教育を中心とした世代だけではなく、多様な世代が学べる場を拡大していく。

②環境を育む人づくり

- ・小中学校において、環境活動を積極的に行っている環境団体の方々等を講師とし、実際に学び、体験する機会を提供するなどのESD講座の取組みを拡げ、子どもたちが様々な環境問題について自ら課題を見つけ、原因や対策を調べ行動できる能力の育成を図る。
- ・地域の環境教育・学習のリーダーとなる人材の育成では、幼少期における五感をつかった体験型環境教育・学習の充実と、実践的な行動、活動に繋がるようなスキルアップの場や情報提供、意見交流などの場を増やすことで、支援を行う。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
環境学習等への参加者数※2	25,202人 (26年度)	↑ 目標値	25,700	26,100	26,600	27,000	27,500	28,000
		↑ 実績値	31,775	30,118	31,222	29,678	10,273	10,989
		↑ 達成率	123.6%	117.4%	117.4%	109.9%	37.4%	39.2%

※2 親子環境教室や施設見学等の環境学習及びあぐりの丘、市民の森、科学館、ペンギン水族館等で開催されている観察会や体験学習等を合算して計上。令和2年度及び令和3年度は新型コロナウイルス感染防止対策に伴うイベントの中止が多かったため、数値が大きく減少している。

個別施策進行管理事業シート

【個別施策コード:D5-1】

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	(事業名) 環境啓発推進費 【環境政策課】	成果指標	環境教室の参加人数
		目標値	200 人
		実績値	227 人
	(事業目的) 環境意識の高い市民を増やすことで自発的に環境行動を実践する市民を増やし、持続可能な社会の構築を目指す。	達成率	113.5 %
		決算(見込)額	1,019,929 円
	(事業概要) 市民・児童の環境意識の向上を図るため、啓発を推進する。 親子環境教室、親子で省エネ実験・施設見学会など、次世代を担う人材の育成のための環境教育を行うとともに、環境副読本の作成などを行う。	成果指標及び目標値の説明	環境学習への取組みの拡大を図るため、親子環境教室及び親子で省エネ実験・施設見学会の参加人数を成果指標とした。 後期基本計画策定時、目標値を見直し、各環境教室の定員数(50名)に開催数を乗じた値を各年度の目標値とした。
		取組実績、成果・課題等	(取組実績) ・小学5・6年生用副読本(わたしたちのくらしと環境)作成 5年生対象 3,650部 ・親子環境教室の開催 3回開催、176人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、51人参加 ・廃食用油 石けんづくりの支援 2回開催、19人参加 (成果・課題等) 市民・児童に環境保全への意識や行動を高めるきっかけづくりができた

令和4年度 個別施策評価シート

個別施策	D5-2	環境行動を促します		
施策の目的 (対象と意図)	対 象		意 図	
	市民・事業者・行政等、すべての主体が		自発的に環境行動を実践している。	
個別施策主管課名	環境政策課		所属長名	執行 毅

令和3年度の取組概要

①環境行動の自主的な取組み

・「ながさきエコライフ・フェスタ」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度同様非接触型ツールの活用や分散会場にて実施した。【D1-1へ再掲】

・継続行動を促す市民ネットワーク「ながさきエコネット」では、「ながさきエコライフ・フェスタ」等で、市民に対し、省エネなど身近な環境行動を促した。

・環境団体との協働により、国際的な課題となっている海洋プラスチックごみ問題について周知啓発を行い、清掃活動を行った。

・2030年までとなる「長崎市第三次環境基本計画」を策定した。策定にあたっては、市民一人ひとりが自分事として捉えられるような様々な生活シーンごとにピクトグラムを用いて環境行動の実践例やその効果を掲載するなどの工夫を行った。

②協働による環境行動の拡大

・「ゼロカーボンシティ長崎」の推進にあたって、地球温暖化の影響を受ける世代である中学生、高校生、大学生からなる次世代ステークホルダーの主体的な意見を集約し、意見交換する機会として、市議会議場において「市民連携フォーラム」を実施した。

・市民ネットワーク「ながさきエコネット」では、市民活動団体の持つノウハウを活かし、自治会等と連携して環境講座を開催した。また、「ながさきエコライフ・フェスタ」の企画・運営を市民活動団体との協働で行った。

・持続可能な地域づくりを担う人材育成推進を目的とした「ながさきサステナプロジェクト」の一環として、「サステナプラザながさき(長崎市地球温暖化防止活動推進センター)」において、より幅広い市民の身近な環境行動を促進するため、サステナひろば等の市民向けイベントを実施した。【D1-1へ再掲】【H1-2へ再掲】

・「長崎市地球温暖化防止活動推進員」に対する研修会を開催し、スキルアップと地域での出前講座の質の向上を図った。【D1-1へ再掲】

・環境に配慮した事業活動を促進するため、エコアクション21地域事務局や長与町、時津町と連携して中小企業向け「エコアクション21」説明会を開催した。【D1-1から再掲】

・長崎市版「COOL CHOICE(賢い選択)運動」※1として、省エネ家電、省エネ住宅、低炭素物流、エコカー、スマートムーブ※2、の普及促進を行い、「ながさきエコライフ」の取組みの浸透と拡大を図った。【D1-1へ再掲】

・新たに45団体の里親の認定を行い、アダプトプログラムの手法を用いて環境美化活動を行った。また、ボランティア清掃に対してごみ袋の支給やごみ収集車の手配等の支援を行った。【E8-4から再掲】

※1 地球温暖化防止のため「COOL CHOICE(賢い選択)」として、公共交通機関の利用、エコカー、エコ住宅、省エネ家電への買替え等を促す国民運動のこと。

※2 スマートムーブ…公共交通機関利用への転換、エコドライブの実施及びカーシェアリングの実施など、エコで賢い移動方法のこと。

評価(成果)

①環境行動の自主的な取組み

・「ながさきエコライフ・フェスタ」は、市民会館をメイン会場に、その他3か所の会場で開催し、約2,600人が来場した。(令和2年度:約1,000人→令和3年度:約2,600人)また、「ながさきエコライフ・ウィーク」期間中、家庭・学校・職場等から約40,000人が参加し、市民や事業者がイベントに参加することで、自らできる環境行動を知り、環境行動の実践に繋がった。【D1-1へ再掲】

②協働による環境行動の拡大

・「エコアクション21」説明会を開催し、延べ13者の事業者が参加し、事業者へ環境に配慮した事業活動を促すことができた。【D1-1から再掲】

・長崎市版「COOL CHOICE(賢い選択)運動」の普及啓発として、「ながさきエコライフ・フェスタ」において、環境団体と連携して「エコドライブ」の普及啓発ブースを出展したことで、長崎市版「COOL CHOICE運動(賢い選択)」と併せ「ながさきエコライフ」の取組みの浸透と拡大につながった。【D1-2、H1-2へ再掲】

・市民大清掃等のイベントや、ボランティア清掃団体に対してごみ袋の支給を行っており、約500団体、延べ約9万人がボランティア清掃に参加し、地域や職域、学校など様々な単位・団体による自発的な活動が定期的になされるようになっており、環境行動に対する意識の醸成が図られた。

・アダプトプログラムの里親数については、これまでのホームページ等による周知活動により、制度の認知が進んでいるのと、本市との包括連携協定の締結に基づく登録により、新たに45件の里親の登録があり、地域の環境美化に対する市民や企業の意識高揚が図られた。【E8-4から再掲】

評価(問題点とその要因)

①環境行動の自主的な取組み

・「ながさきエコライフ・ウィーク」の取組み及び周知方法が恒常化しており、環境行動に興味がない層にまで参加者が広がっていないため、環境行動の実践を習慣づける「ながさきエコライフ・ウィーク」の参加者数が目標を下回っている。

②協働による環境行動の拡大

・「サステナプラザながさき」が「環境行動の推進役」としての存在が知られていないこと、実施しているイベントや、施設で学習できる内容が市民が興味を持つものとなっていないため、「サステナプラザながさき」の認知がまだ十分ではない。【H1-2へ再掲】

・環境行動を促すための情報提供やアドバイス等が市民まで行き届いていないため、環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしが十分でない。

今後の取組方針

①環境行動の自主的な取組み

・「ながさきエコライフ」の取組み等を通じて、市民生活や事業活動における温室効果ガスの排出削減や、省エネなど身近な環境行動を促し、市民及び事業者への周知・啓発を充実することで、継続的な環境行動の実践を進める。

②協働による環境行動の拡大

・次世代ステークホルダーの活動を拡大し、継続的なものとするため、彼らの意見やアイデアの実現に向けた支援を行う。

・「サステナプラザながさき」を中心として、市民ネットワーク「ながさきエコネット」と連携、協力しながら既存のイベントを活用し、「ながさきエコライフ」の取組みの浸透と拡大を図り、より多くの市民の継続的で身近な環境行動につなげる。【D1-1、H1-2へ再掲】

・「サステナプラザながさき」を中心に海洋プラスチックごみ問題について、継続して周知啓発、清掃活動を行い、市民が自ら海洋プラスチックごみ抑制策を実践するよう進めていく。

・「環境行動の推進役」としての「サステナプラザながさき」の周知を行うとともに、市の様々な広報手段と連携して、取り組み内容を発信し、幅広い市民の参加につなげていく。

・「サステナプラザながさき」が、市民ネットワーク「ながさきエコネット」に参加している環境団体と学校や事業所間のつなぎめとなることで環境活動の連携を進めていく。

・公共施設のLED化を推進し、地域活動の拠点であるふれあいセンターなどにおいて、講座の開催等により「ゼロカーボンシティ長崎」の推進について地域住民への情報発信を行い、幅広い市民への周知、啓発を図る。

成果指標

※「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標

指標名	基準値(時期)	区分	H28	H29	H30	R元	R2	R3
①環境イベントへの来場者数※1	60,000人(27年度)	↑ 目標値※2	61,000	62,000	63,000	49,000	50,000	51,000
		↑ 実績値	53,000	20,432	73,525	62,575	1,834	3,255
		↑ 達成率	86.9%	33.0%	116.7%	127.7%	3.7%	6.4%
②ながさきエコライフ・ウィーク参加者数	68,000人(26年度)	↑ 目標値	74,000	77,000	80,000	83,000	86,000	89,000
		↑ 実績値	65,000	63,000	62,000	61,000	12,000	40,000
		↑ 達成率	87.8%	81.8%	77.5%	73.5%	14.0%	44.9%

※1ながさきエコライフ・フェスタ、街頭キャンペーン、ポイ捨てキャンペーン、空き缶キャンペーン、COOL CHOICE事業におけるイベントにおける参加者数で計上している。平成29年度はエコライフ・フェスタが中止になったため、実績値が著しく減少しており、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による分散開催のため著しく減少している。(エコライフ・フェスタは、2日間開催の合計数を計上)

※2街頭キャンペーンについて、事業見直しによりR元年度より本市において主催しないとしたことから、当該来場目標数(15,000)を減とする目標値の変更を行っている。

No.	事業名・担当課・事業目的・概要	事業実績、成果・課題等	
1	<p>(事業名) 地球温暖化対策市民運動推進費</p> <p>【ゼロカーボンシティ推進室】</p> <p>(事業目的) 市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、「だれでも」「いつでも」「簡単に」取り組むことができる運動を展開し、CO₂の排出量削減に向けた市民運動の創出を図る。</p> <p>(事業概要) 「ながさきエコライフ」の取組みの更なる浸透と拡大を図るため、ながさきエコライフ基金等を活用し、広く市民が参画する活動や、未来を担う子どもたちの活動へ還元することで、市民の自発的かつ継続的な環境行動を促進する。</p>	成果指標	環境イベントへの来場者数
		目標値	51,000.0 人
		実績値	3,255.0 人
		達成率	6.4 %
		決算(見込)額	13,382,436 円
		成果指標及び目標値の説明	<p>市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、より多くの市民が環境行動を実践するためのきっかけづくりとして、環境イベントを開催することとしている。市民が取り組むことのできる運動を展開し、CO₂の排出量削減等に向けた市民運動の創出を図るため、成果指標とした。</p> <p>また、毎年度1,000人増を各年度の目標値としている。</p>
取組実績、成果・課題等	<p>(取組実績)</p> <p>ながさきエコライフ・フェスタ 2,600人</p> <p>空き缶回収キャンペーン等 655人</p> <p>(成果・課題等)</p> <p>環境イベントの来場者数については、「ながさきエコライフ・フェスタ」を、令和2年から引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、非接触型ツールの活用や会場を分散するなど、手法を変更して実施し、令和元年度比59,400人の減となったが、令和2年度比1,600人の増となった。</p> <p>今後は、コロナ禍においても市民運動の普及・啓発を図り、継続的な環境行動の実践につながるような仕組みづくりが必要と考えられる。</p>		